

第34回東京免疫フォーラム

The 34th Molecular Immunology Forum Tokyo

日時：2026年3月27日(金) 13:00 開始

会場：東京大学医科学研究所附属病院 8階大会議室 (参加費無料・事前登録不要)

共催：国際共同利用・共同研究拠点 後援：AMED SCARDA

《 開会挨拶 》 石井 健 (東京大学) 13:00-13:05

特別企画「ノーベル賞の現場を覗く」

座長：反町典子 (東京大学)

堀 昌平 先生 (東京大学) 13:05-13:30
「制御性T細胞のマスター転写因子 Foxp3 の発見と発展」

岡崎 拓 先生 (東京大学) 13:30-13:55
「PD-1 研究のあゆみ」

新藏 礼子 先生 (東京大学) 13:55-14:20
「本庶先生の教え—無垢の心で向き合うこと」

<休憩・調整 15分>

Session 1 一般講演

座長：小松紀子 (東京科学大学)

佐藤尚子 (理化学研究所) 14:35-14:55
「腹膜炎発症時に脂肪組織で誘導される CD127+ILC1 は PD-L1 を発現し過剰な炎症を抑制する」

根岸英雄 (東京大学) 14:55-15:15
「細胞死とヌクレオサイトシスによる cGAS-STING-I 型 IFN 応答の活性化」

小沢学 (東京大学) 15:15-15:35
「任意のマウス遺伝子を"ヒト遺伝子全長"に置き換える-遺伝子ヒト化マウス作製技術「TECHNO」の開発と応用-」

<休憩・調整 15分>

Session 2 公募講演

座長：横須賀忠 (東京医科大学)

岡村 勇輝 (東京大学) 15:50-16:10
「免疫老化の新たな側面：Senescence-prone immune cell subsets (SPICs)の同定と解析」

古平 陽太郎 (慶應義塾大学) 16:10-16:30
「共生細菌依存的に活性化されたパイエル板の γ δ T17 細胞は中枢神経系に移行し脊髄炎を誘発する」

村上 龍一 (東京大学) 16:30-16:50
「転写因子 Foxp3 による動的かつ直接的な制御性 T 細胞のシス制御プログラムの制御」

<休憩・調整 15分>

特別講演

座長：浅野謙一(横浜市立大学)

渋谷 彰 先生 (筑波大学) 17:05-17:50
「免疫受容体の研究—遺伝子クローニングから創薬開発研究へ—」

《 閉会挨拶 》 浅野謙一(横浜市立大学) 17:50-18:00

<懇談会> 演題終了後 同会場、参加費5000円(学生無料) 18:30-20:30

【問い合わせ先】東京大学医科学研究所 ワクチン科学分野 根岸 英雄
E-mail アドレス：hnegishi アット g.ecc.u-tokyo.ac.jp (「アット」を「@」に変換してメールをお送り下さい)